

PICKUP
日々の活動報告



①MAEBASHI BAR STREET けやき並木フェスの一企画だが、行政のイベントとは違うおしゃれな感じが漂っていた。デザインを重視するだけで来場者が変わる。

②前橋クリテリウム 自転車のまち前橋。もっとダイナミックにコースを検討してもいいかもしれない。近隣の渋滞問題もある。市民理解は進んでいるか。

③めぶくトーク 学ぶのではなく発見する。過去の成功体験を忘れ、常識を疑い、問題設定力を身につける。外村さんのお話は2年前にサンフランシスコで聞いて以来だが、相変わらず面白

い。このままでは前橋が、日本が、取り残されてしまう。

④第70回前橋まつり 山車にお神輿、踊りに鼓笛、なんでもありのお祭りだ。特に小学生による鼓笛パレードは前橋の魅力の一つである。

⑤前橋市青少年健全育成大会 当日はおよそ530人の方が来場。本市代表中学生による少年の主張、青少年健全育成実践発表、講演などが行われた。

⑥驛家の木馬祭り 表紙でも紹介したお祭りの本祭の様子。創造の力を信じるこのお祭りの可能性は無限だ。

AKATONE
NEWS

● 平成30年第4回定例会開催予定

どなたでも傍聴できますので、市議会の様子をぜひご覧ください。

- 11月28日(火) 本会議(初日:議案上程)
- 12月5日(水)~7日(金) 本会議(総括質問) ※赤利根 質問予定は7日
- 12月14日(金) 本会議(最終日:表決)

※本会議の傍聴は議会庁舎5階の議場入口で受け付けます。
※手話通訳を希望される場合は、傍聴希望日の7日前までに下記へご連絡ください。

前橋市議会 赤利根 〒371-8601 前橋市大手町二丁目12-1 ☎ 090-3510-6113



● 赤利根ブログ毎日更新中! 「赤利根」で検索!



【驛家(うまや)の木馬祭り 前夜祭】前橋の中心市街地をカラフルな木馬が練り歩くお祭り「驛家の木馬祭り」。前橋の、秋の風景となっている。実は、前日には利根川沿いのグリーンドーム駐車場で「わら木馬のお焚き上げ」が行われている。本祭の無事を願うとともに、太鼓のリズムで皆が輪になって回る。驛家の木馬祭りはまさに、新しい価値創造のお祭りだ。年々進化して新しい何かを感じさせてくれる。前橋市は新しい価値の創造都市を目指している。それは市民の自由な発想を受け入れてくれるということなのかもしれない。

前橋市議会「赤利根」とは?

赤城山の赤に利根川の利根であかとねと読みます。はるか昔からこの地を形成してきたその2大要素を中心に、前橋のさまざまな魅力を市民の皆様とともに考えて、市外、県外、海外に誇れるまちにしていきたい。この思いを実現していくために活動する会派です。



所属議員

岡 正己 (おか・まさみ)

1980年12月29日生まれ。前橋市出身、下小出町在住、まちなかが活動拠点のため事務所は千代田町。父は大利根町、母は富士見町のmade in 前橋の37歳。二児の父。

第3回定例会の報告

平成30年9月4日～9月27日

平成30年9月12日 総括質問二日目(20分間)
岡正己(赤利根)
※議員の発言内容は「読みやすさ」を意識し、割愛・編集している箇所がございます。
議事録は「前橋市議会議事録」としてウェブ上で公開されておりますのでそちらをご覧ください。
URL: <http://www.city.maebashi.gunma.jp/sigikai/index.html>

1. 中心市街地について

求められる価値の転換



前橋工科大が取得した建物が、アーツ前橋の秋の展示「つまずく石の縁」の会場の一つとして期間限定で市民に開かれた



解体される直前の建物。以前は婦人服のお店が営業していたビル

前橋市の最上位計画、第7次総合計画の将来都市像は「新しい価値の創造都市・前橋」。ビジョンはめぶく。前橋市の政策一つ一つが種となり未来へめぶき、新しい価値を創造していきます。これからは様々な価値の転換が求められる時代です。

①中心市街地再開発

岡議員 現在中心市街地では、千代田町二丁目8番街区周辺の再開発事業についても検討が開始されています。8番街区には駐車場として利用されている市所有地があります。市も地権者として大切な財産を最大限有効に活用しなければなりません。

都市計画部長 周辺への賑わい波及効果を高めるため、業務施設などの昼間人口が増加する施設や、商業施設の強化、さらに充実したイベントができる広場などの機能を誘導することで、多くの市民が集い活動や活躍できる中心市街地の拠点づくりを目指したい。

②遊休不動産活用の考え方

岡議員 市街地総合再生計画の策定を契機に、中心市街地において民間再開発事業が実施され、老朽化建物や低未利用地の更新が図られているものの、未だ空きビルや空き店舗等の遊休不動産が数多く点在しております。

都市計画部長 これまで空きビルをシェアハウスなどに転用する住宅転用

促進事業について4件実施しており、既存ストックを活用したまちなか居住の促進に取り組んできました。一方で、中心市街地には居住だけでなく、賑わいを創出する店舗やワーキングスペース、交流施設なども必要と考えており、遊休不動産を活用したリノベーションまちづくりに積極的に取り組みたい。

③前橋工科大が取得した建物

岡議員 平成29年度6月補正にて市が基金から取得した後に、前橋工科大学に8月に有償譲渡した千代田町四丁目所在の建物について、活用状況はどのようなになっているか伺います。

総務部長 この建物は法人の運営努力によって生じた目的積立金により法人が取得しました。建物は教員の研究活動及び学生の研究・学習活動等を行う場としての活用を予定しているということです。現在、大学において建物の耐震補強の設計及び建物の具体的な活用方法を、建築学科の教員などが参画している学内のワーキンググループの中で検討しているところです。

たNPO法人にも参画いただき、事業効果をより高めております。なお、今年度は参加校2校増で、5校となる予定です。効果としては、アーティストの卓越した表現力やコミュニケーション力を体験する機会となったほか、六中では、生徒たちと制作したテーブルや展示スペースが、今も学校で活用されております。

第7次総合計画では、アーツ前橋の主催事業に参加する学校数が成果指標の一つとして示されています。質の高い芸術や文化に触れる機会を提供していくため、教育委員会との連携をさらに深め、教育普及事業の主要事業として、アーティスト・イン・スクールの充実に努めます。

2. アーティスト・イン・スクール

いつもの学校にアーティストがくる



前橋出身のアーティスト・村田峰紀さんによるこども園でのパフォーマンス。アートがより身近になることで多様性が生まれる

アーツ前橋では、アーティストやクリエイターを市内の小中学校や高校に派遣し、ワークショップや授業を行う「アーティスト・イン・スクール」事業に取り組んでいます。

岡議員 これまでの取り組み状況と、その効果について、また、今後の方針と目標について伺います。

文化スポーツ観光部長 平成28年度より、勢多農と月田小から着手しております。昨年度は、合計3名のアーティストが、六中・みずき中・桃川小にそれぞれ1名出向き、中長期にアーティストが関わるプログラムを実施しました。また、この事業には、群大の美術教員が主体となっ

3. 産業政策について

販路開拓促進補助金の現状と今後



富山県の株式会社能作。商品やワークショップ、カフェのメニューに、製造業のノウハウが最大限活かされている

地域経営というテーマのもと、前橋市にたくさんある魅力の種に水をあげるのには行政の仕事であり、前橋市全体で稼ぐことにつながっていかねばなりません。大量消費時代が終わりを迎えるようとしています。人々は皆、何かを購入する際、その理由を探しています。

岡議員 たくさんの製品が溢れる市場で、消費者に興味をもってもらうためには、デザインの訴求力が有効であり、新たな販路開拓に繋がると考えていますが、「販路開拓促進補助金」の取り組み内容と今後の展開について伺います。

産業経済部長 「販路開拓促進補助

金」は、製品のプロモーションなどの販売促進活動を支援することを目的として平成29年度に創設いたしました。昨年度は、7件の申請中、審査の結果2件、100万円の補助を実施しました。今年度は予算枠を拡充し、上半期に受け付けた6件の申請中、3件、100万円を採択したところです。

今後、平成29年度改定版産業振興ビジョンにおいて、新たな販路を開拓するための支援を戦略の1つとして掲げていることもあり、市内中小企業の自社商品を、デザインの力で、より魅力的なものにするための支援を継続的に行っていきたくと考えております。

4. ユニークベニューについて

「ユニークさ」を大切に



臨江閣別館一階の西洋間では飲食も可能なので様々な使い方ができる。使用できる重要文化財を活かさなくては勿体無い

コンベンション専用施設ではなく、博物館や美術館などの「特別な会場」で、会議やイベント、レセプションなどを行う「ユニークベニュー」が、地域の資源を生かした新たなコンベンション需要の創出として注目を集めています。こうした中、臨江閣などの地域資源を活用した群馬県の取り組みが、観光庁の「ユニークベニューの利用促進に向けた地域連携モデル事業」に採択されました。

岡議員 今後、臨江閣をユニークベニューとしてどのように活用していくのかを伺います。

文化スポーツ観光部長 今回のモデ

ル事業は、本市の臨江閣とあわせ、世界遺産である富岡製糸場、北毛地域のスノーフィールドでのモデルイベント実施について、群馬県域全体で名所を活用したユニークベニューの推進のため、8月に群馬県の事業として採択を受けたものです。今回のモデル事業を契機にコンベンションにおけるユニークベニューとして臨江閣の活用を進めるとともに、フィルムコミッション活動による撮影支援も広い意味でのユニークベニューと捉え、日常利用とは発想を変えた特徴的な活用方法で、本市の地域資源を用いた幅広い観光誘客に繋がっていきたく。

5. TONTON グランプリについて

認知度の高まりとマンネリ化



注染のころんと手ぬぐい。グッズなどの可能性もまだまだある、豚肉料理からさらに派生させたものも必要になってきている

本市の名物料理創出を目的に毎年開催されている「T-1グランプリ」も継続して開催することにより認知度が高まってきている。しかし年々マンネリ化してきており、課題も多いのではないのでしょうか。

岡議員 今後、「T-1グランプリ」を通じて、更なる観光誘客や豚肉料理のPRはもちろん、食によるまちづくりにつながるため、どのような展開を考えているかを伺いたい。

文化スポーツ観光部長 今後は、10回目の節目となる今年度の大会を、記念大会として盛大に開催するとともに、本市の食によるまちづくりのさらなる活性化を図るため、「ようこそまえばしを進める会」の構成団体と連携・協力のうえ、新たな運営・仕掛けづくりについて詰めていきたく。

***このあと質問した「前橋工科大学の中期目標の策定について」は、時間内に収まらず質問しきれなかったため、割愛させていただきます。**

特集 1

第13回 全国市議会議長会研究フォーラム
in 宇都宮のレポート

全国市議会議長会は、北海道から沖縄県まで、全国47都道府県の市及び東京特別区の合わせて815団体の議長により構成される組織です。今年度は、11月14日～15日に栃木県宇都宮市で開催。全国から約2300人の市議会、区議会議員の方々が集結していたので、宇都宮駅のシャトルバス乗り場には議員の長い列が。駅周辺の飲食店はどこもかしこも議員だらけ。どうやら、コンベンションによる経済効果はあるようだ。



● 1日目のプログラム 「基調講演・パネルディスカッション」 基調講演 宮本太郎氏（中央大学法学部教授）

基調講演は、「地域共生社会」をどうつくるか。2040年を越える自治体のかたちというテーマ。寿命は伸びていくが幸福感は広がらない。長寿を手に入れたが困窮化と孤立化という問題が発生する。2040年には生活保護受給者が200万人を超えるという見通しもあるようだ。人口に対しての高齢者の割合が圧倒的に多くなり現役世代もそれを支えきれなくなるという。しかも東京一極集中により若年層がどんどん漏斗化され限界点に達し、地方と東京はそれぞれ違う形で持続可能性が問われてしまう。このピンチ

を、どうチャンスに変えていくのか。パネルディスカッションのテーマは「議会と住民の関係について」。それぞれの立場、経験値から住民と議会との関係についてプレゼンがあったが、課題はやはり議会と住民との距離感だ。今の市町村議会を細かく分析してその大きさから生じる課題、議会・政治の本質、特性を活かした地域づくりの事例、議会改革の全国の事例など話題は多岐に渡った。

パネリスト 今井 照氏（公益財団法人地方自治総合研究所主任研究員）、本田 節氏（有限会社ひまわり亭代表取締役 食・農・人研究所 リュウキンカの郷主宰）、神田 誠司氏（朝日新聞大阪本社地域報道記者）、小林 紀夫氏（宇都宮市議会議員）



● 2日目のプログラム 「課題討議・視察」 コーディネーター 江藤敏昭氏（山梨学院大学大学院研究科長・法学部教授）

1日目に続き「議会と住民の関係について」。久慈市議会の基本条例の前文を方言にした「議会じゃえじゃえ基本条例」や住民と議会が協働する「かだつて会議」など住民との距離を縮めようとする事例が印象的だった。新潟市議会では、市議会議員って何をしているのかわからないという住民の声に耳を傾けて、高校生を対象に模擬市議会を行うなど、主権者教育に注力。実施後は市議会への関心度が上がったそう。犬山市議会は元アメリカ人のピアンキ議長のリーダーシップのもと、定例

会の間に全議員による「市民の意見」を議題にした議員間討議、市民フリースピーチ制度導入など、市民参加をテーマに徹底的に議員と住民の距離を縮めている。議会と市民の位置はここまで近くなることができるのかと驚いた。本来市民の代表が議員であるのに、お互いの距離を遠く感じてしまうのは議会の責任だ。議会の力を最大限発揮しているのか。今問われているのはここである。

事例報告者 桑田 鉄男氏、（久慈市議会副議長）、伊藤健太郎氏（新潟市議会議員）、ピアンキ・アンソニー氏（犬山市議会議員）、道法 知江氏（竹原市議会議員）



● 蔵の街・栃木市 重要伝統的建造物保存地区活用事例、空き店舗によるコミュニティ強化事例を視察

「蔵の街とちぎ」のまちづくりを視察。その昔、店舗の間口の広さで納める税金が違っていたこともあり、お店、住居、お庭、蔵という縦長な構成が特徴的。古いものを残していこうと空き店舗利用なども促進されている。若者向けのイベントなど民間独自のものと行政的な企業支援などによる出店が蔵を中心とした外観を守ることによって一致しているまちだ。最近出店したスターバックスもその外観をかなり意識し、馴染むように作られている。蔵はまちのアイデンティティになっている。この道30年のベテランボラン

ティアさんの説明を受けた際、彼らの地元愛を強く感じ、なんだかほっこりさせられた。地域活性化策として、コミュニティFMと地元農産物や特産品などを扱う「まちの駅」小江戸市場、UIJターンした若者が運営するインキュベーション施設なども見学。古いものと新しいものの融合や情報の発信、地元を再確認し東京にない魅力を見出すことが大事だと感じた。地方が皆同じ方向に向かっている現在、重要なことは何か、選ばれるためには何が必要か。前橋にとっても課題である。



特集 2

赤利根的 2018年 前橋5大ニュース！

2018年も残すところあと1ヶ月余り。今年はどのような一年だったでしょうか。赤利根では、独自の視点で気になった前橋のあれこれを「5大ニュース」としてまとめてみました。平成最後の年の瀬に今年一年を振り返りましょう。

1月

第96回全国高等学校サッカー選手権大会 前橋育英高校が初優勝



千葉県代表の流通経済大学付属柏高校を決勝で破り悲願の初優勝。これで、野球・サッカー共に全国優勝経験校となった。前橋という名前を全国に知らしめてくれた山田監督と生徒たちには感謝しかない。当日、前橋市議会議員有志で応援に行き優勝の瞬間を分かち合った。若者は頑張っている。では我々大人はどうか。これからの未来に恥じない行動を取っていかなければならない。

前橋北代田町の県道で起きた高齢ドライバーによる死亡事故

始業式の日にもあまりにも衝撃的なニュース。市内の女子高生2名が事故に巻きこまれた。ここは以前より危ないと訴えられていた県道だ。この事故をきっかけに免許返納が相次いだという。高齢化と、公共交通の問題という両側面から、とにかく尊い命がもう二度と奪われないようにしなくてはならない。そのためには今何ができるか。私たちに突きつけられている課題はとても大きい。



1月

3月

岡本太郎氏による名作「太陽の鐘」が広瀬川河畔に登場



世界的芸術家である岡本太郎氏による幻の作品「太陽の鐘」が、日本通運株式会社から前橋市に寄贈され、前橋ビジョン「めぶく。」の発表とともに発足した「太陽の会」と同市の官民連携によって前橋のまちなかのシンボルとして広瀬川沿いに設置された。前橋の子ども達にとって「自分の地元には太陽の鐘というなんとも変な鐘がある」というアイデンティティになる。まちの中に新たなスポットができたことにより人の流れが変わり、各拠点が回遊性を促すことでまちのにぎわいを創出する。

前橋市教育委員会ネットワークの公開用サーバーへの不正アクセスにより個人情報が流出

前橋市教育委員会ネットワークの不正アクセスが発覚。サーバーに脆弱性が認められたとともに、内部ファイアウォール、外部ファイアウォールともに不備もあった。平成24年度から平成29年度まで在籍した全ての児童生徒と教職員47,839人分の給食データと個人情報、このうち、口座情報も28,209件、給食費にかかる入金情報が流出した。今後の対策を強化するしかない。情報化社会に対応する専門の職員が必要だ。



3月

11月

前橋市中心市街地「まちなか」の再開発計画が持ち上がり話題に



「まちなか」は前橋の顔だ。前橋市も32名いる地権者の一人として再開準備組合に参加している。合計の区域面積は約2.3ha。平成30年度 業務代行選定、同31年度 都市計画決定、調査設計等、組合設立許可、同32年度 権利返還計画認可、既存建物除去、建築着工の予定。イメージ図には複合施設、教育施設、業務施設、自走式立体駐車場、宿泊施設、商業施設が描かれている。まずはビジョンが大切。地域経営の元しっかりと稼ぐまちにならなくては未来はない。